

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103458
法人名	株式会社ケアジャパン
事業所名	グループホーム ハッピー
所在地	松山市中央1丁目17番35号
自己評価作成日	平成25年10月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたらしい生活を応援します」を運営理念とし、地域に根差したホームづくりに努め、可能な限り自分らしく自立した暮らしを守っていきたく思います。皆様に日々の生活を楽しく、家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人の個性、生活リズムを大切に生活して頂けるように応援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地のビル2階に位置する事業所で、地域とのつきあいについて難しさがあるため、理念に掲げて取り組みをすすめてきた。近隣のスーパーへは、毎日利用者と食材の買い物に行き、顔見知りになっている。近くの他事業所のお祭りに参加したり、運営推進会議時、地域行事の日時を教えるも積極的に参加している。公園で行う地域のお花見、中学校で行う地域の夏祭りの盆踊り見物、小学校である「しみず祭り」では、事業所に用ひを準備してくれる。秋祭りには、町内会の子供みこしの訪問がある。調査訪問日の食事時、職員は笑顔で丁寧な言葉遣いで声をかけていた。洗濯物たたみや居室、廊下のモップ掛け、包丁を使って果物や野菜の皮むき等、個々の力を活かす場面作りにも努めている。お茶の時間は、コーヒーやくず湯、生姜湯等、季節によって数種類の飲物を準備したり、着替えの際には複数の衣類を見せてご本人が選択できるように支援している。職員が決める場合は、ご本人の表情を見て満足度を確かめるようにしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームハッピー

(ユニット名) ハッピー

記入者(管理者)

氏名

柿田 理世

評価完了日

平成27年 10月 7日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 当社の運営理念として「優良な介護サービスを継続提供することによって地域社会に貢献する」を掲げ、当ホームの理念として「あなたらしい生活を応援します。地域の根ざしたホーム作り」を掲げています。ホーム内に理念を掲示し、いつでも確認しながらスタッフ全員で共有できるようにしています。 (外部評価) 職員で話し合い「あなたらしい生活を応援します」「地域に根ざしたホームづくり」と理念を作っており、ユニットの入り口等に掲示している。管理者は、認知症や尊厳について等の研修時や日々のケアの中で個別支援の大切さを話して、職員が理念を理解しながら実践できるよう導いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域での行事や校区の催事等可能な時は参加しています。(はなまつり、町内会のお花見、しみず祭り、中学校のフェスティバル、秋祭り等) 日常の買い物や散歩等外出時に挨拶をしてご近所つきあいが出来るよう努めています。又、ボランティア(フラダンス、トーンチャイム等)の方にも来たもらっています。 (外部評価) 市街地のビル2階に位置する事業所で、地域とのつきあいについて難しさがあるため理念に掲げて取り組みをすすめてきた。近隣のスーパーへは、毎日利用者と食材の買い物に行き、顔見知りになっている。近くの他事業所のお祭りに参加したり、運営推進会議時、地域行事の日時を教えてもらい積極的に参加している。公園で行う地域のお花見、中学校で行う地域の夏祭りの盆踊り見物、小学校である「しみず祭り」では、事業所用に席を準備してくれる。秋祭りには、町内会の子供みこしの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内会長さん等に話をさせて頂いて、認知症や介護保険について話し合いや相談が出来る取組みを相談しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>原則2カ月に1回運営推進会議を開催しています。多くの方々に参加を頂いて、その都度に状況の報告や様々な情報が聞けるような機会を提供しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、民生委員2名とご家族2~7名の参加がある。ご家族の都合を聞いて日程を決めたり、敬老会や年2回行う家族会と併せて会議を行い、ご家族の参加につなげている。会議では、行事や取組み、利用者の普段の様子、又、医療連携の現状等を報告して意見をうかがっている。さらに、会議テーマによっては、利用者や職員も参加して、意見を聞いたり取組みについて発表するような機会も作ってはどうか。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃の連絡は密には取れていませんが、市の研修や協議会等にはなるべく参加するようにしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、ご家族等から介護認定や変更申請等、介護保険に関する質問があれば、市の担当者に説明してもらっている。又、会議時、市の担当者から季節の感染症や食中毒の予防対策についてアドバイスがある。5年間続いた介護相談員3名の方の訪問が3月で終了になったが、その後もフラダンスやトーンチャイムのボランティアとして関わってくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束の研修を受けたり、マニュアルを事務所に設置し、制度について理解出来るように努力しています。 ※年間研修計画の中に身体拘束の禁止を取り入れています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニットの出入り口は、開閉時に音楽が流れるようになっている。ソワソワしている利用者には、気を紛らすような声掛けをして見守るようにしている。居室でセンサーマットを使用している方が数名ある。身体拘束の研修時には、事例を挙げて勉強をしている。行動を制限するような言葉遣いについてもミーティング時に話し合うようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修での取組み、外部研修の活用にて勉強出来るよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社外研修を活用しています。現在は利用されている方はおられません。過去には2人利用されている方がおられました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 当ホームでは解約時に手続きはありませんが、改定があった時には必ず書面にて通知を行い、要望があれば時間をとって説明しています。 ※入居契約時に十分な時間を確保して説明させて頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段から相談しやすい雰囲気作りに気を付けています。家族会(1回/6ヶ月)、運営推進会(1回/2ヶ月)で要望や意見を聞けるよう機会を作っています。	
			(外部評価) 利用者の日々の状況については、個々の担当職員が月1回、手紙に書き写真を添えてご家族に報告している。季刊誌「ひなたぼっこ通信」は、外出時や取り組みの写真を多く載せてコメントを付けユニット別に作成している。新しい利用者や職員があれば、顔写真にコメントを添えて通信で紹介している。ご家族からトイレ誘導時の声かけについて「皆の前で『トイレに』と言うのはいかがなものか」との意見があった。職員で話し合い、ユニットによっては、トイレに花の名前を付けて「百合の花を摘みに行きましょう」等と誘導をしている。外出行事のある時には、ご家族の来訪時に誘っており、今度、大洲までドライブする時には、ご家族が初めて参加されるようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	各部署ミーティング、事業部会議等での機会があります。	職員の中には「認知症のことをもっと勉強したい」「介護保険の制度についてもっと知りたい」と話す方もある。職員の意欲をサポートして、さらなる事業所サービスの質向上につなげていかれてほしい。
			(外部評価)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	職員に長く勤めて頂くためにリフレッシュ休暇制度を設けて心身ともにリフレッシュする機会を作っています。 えひめ子育て応援企業として、認定を受けています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	外部研修の案内を提供し、費用は会社が全額負担する事で意欲的な参加を促しています。会社負担で行った場合は研修報告書を提出し、参加出来なかったスタッフへの理解につなげています。 ※職員全員が、年間研修計画を作成し、計画的な研修を実施して、資質向上に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	グループホーム連絡会等の参加をしています。他GHとの意見交換・交流をしています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	相談があった時にはなるべくご本人、ご家族にホームに見学に来て頂き説明をしています。その時に入居に対してどう思っているか要望や困っていること等、聞けるときには時間をとっています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ご本人と見学に来られた時や、ご本人とは別にご家族と話し合う機会を持つようになっています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			その時に一番困っている事についてお聞きしています。ご家族とGHでの環境の違いを考慮して対応を考えます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			ご本人の状態に合わせて出来る事を一緒に行って頂けるよう支援しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			家族会や運営推進会を開催し、参加して頂けるよう努めています。外出企画や行事の案内をして参加して頂けるよう努めています。毎月1回ご本人の写真と一緒に手紙にして状態をお知らせします。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			友人や親戚の方へホームへ転居した事を伝えて頂き来所して頂ける事もあります。デイサービスを利用されていた方には、デイサービスでの友人に会える機会を作ったりしています。	
			(外部評価)	
			ご本人の元職場であるパン屋で、奥様のお好きなパンを買って、奥様の居る施設に会いに行けるよう支援している事例がある。県外からご家族が来られた時には、居室で一泊し、お墓参りには職員も同行して支援した。管理者は、「利用者は自宅に帰りたいという思いを持っており、以前の生活圏をドライブしたり、できれば自宅訪問をしたい」と話していた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の状態の把握に努め、仲の良さや支援の必要な利用者との関係等に留意し、交流が持てるように支援します。必要な時は仲介します。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 普段から報告・連絡・相談を密に行うようにしています。退去に至る段階より相談をお受けして、ご本人・ご家族にとって良い方法を探す支援をしています。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活支援の中で出来る限り選択出来る生活を送れるように努めています。ケアプラン作成時には日々の生活の様子やご本人との会話の参考に、ご本人主体の意識で作成しています。	
			(外部評価) 事業所独自の「アセスメント表」を用いて、食事や入浴、排泄、日中の活動等の項目別にご本人の現状や希望、職員の気付き等を記入し、情報の収集に取り組んでいる。毎年4月に更新する仕組みを作っており、月ごとに状況や新情報を記入するようになっている。利用者個別に「24時間個別介護計画書」や「介護サービス手順書」を作成し、個々の生活リズムの把握やケアの統一に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご本人・ご家族からお聞きしています。入居時以降も情報の収集に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月アセスメント表を作成し、ケアカンファレンス等を参考に変化を把握出来るよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>アセスメント表、ケアカンファレンスを参考にしてご本人・ご家族の意見をお聞きし、主治医の指導も含めてケアプランの作成を行っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、「ご家族と特にご本人の希望を引き出し反映する」「ご本人の現状に合っているか」に留意して作成しており、職員で話し合ってから計画作成担当者がまとめている。毎月、職員で個々のケアについて話し合い、6ヶ月毎に評価して見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子は「24時間個別介護記録」と「個別介護記録別紙」を使用して記録します。月1～2回ミーティングとケアカンファレンスを行い、情報共有に努めています。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族や医療関係機関と密に連絡を取り、状況に合わせて必要な支援を行っています。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>買物や散歩など外出時の挨拶から始めて、ご利用者と近隣のお店の方などの関係作りをしています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居相談時に決まったかかりつけ医がなければ、ホームから情報を提供しかかりつけ医の利用を支援しています。 ※訪問診療医と契約されている利用者については、365日24時間の連携がとれる体制ができています。	
			(外部評価) 現在、1名の方が入居以前からのかかりつけ医に、ご家族が付き添って受診している。他利用者は、協力医療機関の訪問診療医を受けている。往診の結果等は、必要に応じてかかりつけ医からご家族に報告してくれるようになっている。週1回、法人の看護師資格を持つ職員の訪問があり、利用者の健康管理やアドバイスをしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) GH内には常時の看護職員は配置していませんが、同じ施設内のデイサービスの看護師と連携して対応しています。又、訪問診療の医師が来所した際、気付いた事や日常の様子等の情報を報告しています。 ※平成27年10月からは、看護師を配置し、週1回の健康管理ができる体制をつくり、更に質の向上を図っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) かかりつけ医の連携して情報交換を行い、退院時には面会に行きご本人の状態の確認をして、ご家族やかかりつけ医と相談し、日取りや情報提供等を決めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族 かかりつけ医と連絡を取り合いながら、看取りの要望があれば当GHの「看取りの指針」を説明し、出来る限りの対応を行っています。	
			(外部評価) この1年間に、2名の利用者の看取りを支援した事例がある。管理者は、ご家族に「ご本人とご家族のために場所と目を提供し、看取りのお手伝いをさせていただくことを伝えている。今夏、看取り支援した事例では、ご家族は毎日利用者に会いに来られて付き添いして、ともに看取った。他利用者の方達もそばに来て、話しかけたり手を握ったりした。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時の緊急マニュアルを設置している。出来るだけ救急法の講座を受講し、技術の習得に努めています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練に参加し体験や説明を受けています。又マニュアルや防災マップを整備しいつでも見られるようにしています。	
			(外部評価) 同じ建物内にある併設デイサービスと合同で、出火場所を変更しながら実施している。職員が利用者役になり、防火扉の向こう側まで避難した。現在、車イスの利用者が多く、防火扉の向こう側は階段でもあり、管理者は全員が安全に避難できる方法を模索中である。	利用者や職員のさらなる安全・安心に向けて、いろいろな場面を想定した事業所独自の訓練も重ねてほしい。運営推進会議時に避難訓練を行って、参加者に意見を聞くような機会も作ってはどうか。地域やご家族との協力体制作りもすすめてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご本人に合わせた声かけやプライドを尊重した配慮を行っています。	
			(外部評価) 調査訪問日の食事時、職員は笑顔で丁寧な言葉遣いで声をかけていた。洗濯物たたみや居室、廊下のモップ掛け、包丁を使って果物や野菜の皮むき等、個々の力を活かす場面作りにも努めている。お茶の時間は、コーヒーやくず湯、生姜湯等、季節によって数種類の飲物を準備したり、着替えの際には複数の衣類を見せてご本人が選択できるよう支援している。職員が決める場合は、ご本人の表情を見て満足度を確かめるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でなるべく選択の機会を作り、ご本人による決定が行えるよう努めています。何事もご本人に声掛けを行えるよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限りご利用者の希望に添えるよう日常の支援を行っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) アクセサリやマニキュア、化粧品等ご本人に合わせ購入し楽しんでいます。スカーフやベストなど、ご本人のお好みやこだわりの愛用品をなるべく使用しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日のメニューをご利用者と一緒に決めて、一緒に調理をしたり味見をして頂いたりして楽しんで頂けるようにしています。 (外部評価) 週3日、昼食のおかずのみ業者から届くようになっている。その他の食事は、ユニット別にその日の担当者が利用者と一緒に毎日近くのスーパーに買い物に行き、利用者の意見を聞きながら献立を決めて調理している。調査訪問日の昼食はちらし寿司で、職員は利用者と一緒に同じもの食べながら「昔は、ちらし寿司を作りましたか?」と話しかけると、利用者同士の会話も弾み、お好きな具材を知る機会にもなっていた。職員がスプーンで介助するような場合でも、ご本人に箸を持ってもらう等しており、好物があると少し手が動くこともあるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量と水分量はチェック表にして状態の把握が出来るようにしています。かかりつけ医に相談して、ご本人に合わせた量の調整を行っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの声かけを行い、口腔ケアを行って頂けるよう支援しています。介助が必要な方は毎食後に行っています。義歯を使用している利用者は最低週一回ポリドント洗浄をしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表にて排泄パターンの把握に努め誘導や声掛けをしています。日中オムツの使用をなるべく減らし、リハビリパンツ(紙パンツ)や失禁パンツで生活出来るよう支援しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度の方は職員2人で介助をして、日中は利用者全員がトイレで排泄できるよう支援している。便器には、姿勢保持のための背もたれとアームレストが取り付けられていた。トイレは3ヶ所あり、それぞれに「百合」「薔薇」「蘭」と名前を付けイラストを貼って目印にしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>水分調整と腹部を温めりマッサージをして排便を促しています。把握できる利用者に関しては排便無しの日数を念頭においてバイタル等に注意しています。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>朝のバイタル測定時に希望をお聞きしています。特殊浴槽を利用して、車椅子の利用者も浴槽につかれる機会を作っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の希望に応じて個々に週2～5回程支援している。利用者の状態によって併設デイサービスの機械浴を利用しており、全員が浴槽で温まることできるよう支援している。一番風呂のさら湯を嫌う方や女性利用者の中には、自宅での長年の習慣からみんなが入ったあとを希望する方もある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>居室内での休養はいつでも行えるようにしています。エアコンで室内の温度調整をしています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更時や処方時には処方箋を頂き、薬剤師の方に説明を受けています。なるべく一包化を行い事故を防ぐようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 居室内で自身の携帯を利用したり、散歩を日課にしたりして出来る限り支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外に出たいと訴えがある時には、買物同行や散歩で外出機会を提供しています。全体では月1~2回ホームでの外出企画を行っています。	
			(外部評価) 外出行事は、ユニット別に計画しており、ユニットの利用者全員が参加できるよう支援している。お正月には椿神社へ初詣に行き、季節に応じて花見物やぶどう狩り、動物園に出かけたり、中山町クラフトの里ではそば打ち体験、松野町おさかな館ではペンギンの散歩を楽しんだ。いちご狩りでは、事前に下見して園の方と相談してミキサーを持参させてもらい、皆が新鮮ないちごを味わえるよう工夫した。利用者からの希望で松山城に登ったり、温泉の足湯にも出かけた。外食や買い物で近隣の大型スーパーにも出かけている。ユニットリーダーは「今後は、ご家族も一緒に外出する機会を作りたい」と話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 預金を持ち、買物に持って行きご自分のお金で買物をして頂く機会を持っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やはがきなど書かれたら郵送のお手伝いをし、友人やご家族に電話をしたいという希望があれば支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 車イスを使用しているご利用者も動きやすいようゆっくりとした空間作りに努めています。温度・湿度にも気を配り調整しています。季節ごとにホーム内のディスプレイを変えています。	
			(外部評価) ユニットにより利用定員と間取りに違いがある。食堂と居間が分かれているユニットは、居間にあるテレビの前にソファを配置しており、昼食後は、ソファでテレビを見たり、テーブル席でくつろぐ方が様子が見られた。廊下の壁面には、外出やイベント時の写真を月別に掲示しており、毎月貼り替えている。脱衣場や食堂にあえて段差を設け、生活の中でリハビリができるようにしてある。観葉植物を配しているユニットがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを設置してのんびりとくつろげる場を作っています。リビングでイスやソファで自由に過ごされています。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時にダンス等使っていたものを持って来て頂けるよう説明しています。又、間取りに関してもその都度相談しながら変える事もあります。	
			(外部評価) 居室の入り口には、利用者の目の高さに木製の表札を掛けている。ドアにはご本人の誕生日会の写真を飾り、毎年貼り替えている。使い慣れたダンスを持ち込んだり、ご家族や孫の写真を飾っている方もいる。ご家族がカレンダーに次回の面会予定日に○印を付けているところもあった。お好きな本を持ち込み読む方や、テレビを持ち込み夜間ベッドで休みながら楽しむ方もいる。ご本人が不在時は、居室の窓を開けて換気している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの近くには物を置かず、廊下での歩行の安全に配慮しています。整理・整頓に気を配りご利用者目線で危険な物を置かないようにしています。	
			(外部評価)	